

平成 30 年度 看護職員認知症対応力向上研修 カリキュラム

※ 研修目的と共に、各講義のねらい、到達目標をご確認ください。

日程	研修内容	
I 基本知識 講義(180分)	ねらい	認知症患者の入院から退院までのプロセスに沿って、基本的な知識を習得する
	到達目標	病院勤務の医療従事者向けに認知症に関する知識を普及することができる
	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期病院での認知症の現状、認知症の病態、症状 ・せん妄の基本的な知識、予防、発見、対応 ・認知機能障害に配慮した身体管理 ・認知機能障害に配慮したコミュニケーションの基本 ・情報共有、退院調整、身体拘束、治療同意についての基本的な知識 ・管理者による取組の重要性 ・認知症に特有な倫理的課題と意志決定支援
II 対応力向上 講義(330分) 演習(150分)	ねらい	個々の認知症の特徴・症状に対するより実践的な対応力（アセスメント、看護方法・技術、院内外連携手法）を習得する
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入院及び退院時支援に必要となるアセスメントを実施し、適切に院内外に連携することができる 2. せん妄について、認知症との違いを理解し特有の対応を適切に行うことができる
	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症患者の身体管理 ・一般病院に求められる役割 ・認知症患者の世界観の理解、中核症状の理解、基本的な評価方法（アセスメント） ・認知症の疾病経過の理解と疾病段階を踏まえた看護・支援のあり方 ・認知症を疑った場合の初期対応として実践すべき看護・初期集中支援 ・チームや病棟内での情報共有、部門間での情報共有 ・行動・心理症状（BPSD）の予防と病棟での環境整備 ・行動・心理症状（BPSD）の理解とアセスメント、看護方法 ・せん妄の病態、診断、同定、認知症と鑑別 ・せん妄の対策（予防及び早期発見・早期対応） ・退院調整での課題（特に再入院や緊急入院を防ぐためのコーディネート） ・地域連携（在宅医療、地域包括ケアの知識、退院時の情報提供、介護施設との連携） ・（演習）看護計画立案を通じた事例検討
III マネジメント 講義(180分) 演習(240分)	ねらい	マネジメント（人員、環境、情報管理等）の実践的な対応方法及び教育技能を習得する
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各施設の実情に応じた認知症への対応方法を検討し、適切なマネジメント体制を構築することができる 2. 自施設における看護職員への研修（本研修 I 基本的知識編担当）を実施することができる
	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症に関する事例を収集、見返し、フィードバックする体制 ・病棟内、部門内での情報共有、人員の配置 ・コンサルテーション体制（院内・地域内での専門家のアクセスの確保） ・標準的な対応手順 ・マニュアルの検討整備（認知症の療養・退院支援、行動・心理症状、せん妄） ・施設内での目標設定・研修計画立案、教育技法 ・自施設での研修を実施する上でのポイント、教育の要点の伝達 ・（演習）自施設の現状の検討、振り返、自施設内でのマネジメント体制の検討、研修計画立案